

シリーズ 3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑩

職藝学院

教授 渡邊美保子

キョウガノコ

キョウガノコの名前の由来は、つぼみが膨らみだした頃の姿が京染めの鹿の子絞りに良く似ていることからつけられました。6月頃、つやのある薄紅色の小さいつぼつぼのつぼみが集団で現れます。花が開くと、まるでひなまつりのちらし寿司にふりかけてあるふわふわの桜でんぶそっくりになります。一つ一つの花はとても小さく、よく見ると5枚の花びらを持っています（写真1）。



写真1

草丈は、60cmから70cmほどで、満開になる頃には花の重みで少しうなだれた姿になり、その花を支える茎は鮮やかな紅色をおびています。葉からちらりとのぞかせているその姿は、ドキッとするような色っぽさがあります（写真2）。キョウガ



写真2

ノコは、花が咲き終わってもすぐに茶色にならずに、しばらくの間うっすらと赤く染まったままであるため、つぼみが色づいてからの観賞期間がとても長く、花は終わっているのにこれから咲かせてくれるのかなと思わせるほどです。

お庭の南側に枝葉の広がる落葉樹などがある場合は、その下の明るい木漏れ日がさすような場所がお気に入りです。水はけがよく少し湿り気のある土壌を好みます。ソメイヨシノが咲く頃には、わさわさと葉が茂ってきて、雑草よりも一足先に地面を覆ってくるので、広い面積に植えつけますと除草の手間も省けます。病気にも害虫にも強く、長年植えっぱなしでもほとんど手間がかかりません。また、その場所が気に入りますと、そこでゆっくりと生長を続けてゆく寿命の長い宿根草です。

春から秋まで楽しめるおすすめ組み合わせは、シュウメイギク、ギボウシなどです（写真3）。切れ込みのある薄緑色のやわらかな風合いの葉は、風にゆれるたびに庭を明るくします。また、シュウメイギクをキョウガノコの後ろに植えますと、夏の終わりから花茎を伸ばすシュウメイギクは、キョウガノコの株に支えられて暴れることがありません。清楚で控えめな姿は、着物の似合うやまとなでしこといった趣きがあり、和風の庭にも良くあいます。



写真3